

ピリピ人への手紙 第4章 12節

「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」

主イエスを愛し、宣べ伝える者が投獄された。その境遇から、キリスト者をはじめすべての者に手紙が届く。獄外にいる者たちは、ともすれば貧しさに怯え、豊かさで放蕩三昧をし、飢えて見境なくむさぼり、飽くことがあっても欲が絶えず、乏しい者の惨めさ、富が生む傲慢を見る。一生のなかで起きる両極端に揺れ、これを体験しながら路上で吹き抜ける砂塵となり人の道は消える。

ところが、私は、と語る手紙の送り手がいる。筆者も人生の両極を経験してきた。手紙をしたためている境遇は、獄中であるからして、貧しさ、飢え、乏しさの極みであったと想像する。さらに加え、手紙の送り手の命は他人の手のうちにあり、今日明日の命がどうなるのかわからない危うさにあった。ところが、である。「あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています」と断じる。

根拠が13節にある。強くしてくださる方を知っている。主イエスを知っている。変わらざる主イエス・キリストを知っている。あらゆる境遇で聞くみことばがある。